

相互提案協働事業 報告書

2020年 3月 31日

(宛先) 鎌倉市長

住所 [REDACTED] 下4-3-3 リバーサイド101号
 郵便番号 [REDACTED] 5
 団体名 特定非営利活動法人 [REDACTED] バリアフリーセンター
 代表者 [REDACTED] 正博

令和元年度事業報告会に先立ち、協働事業の実施状況・実施結果について、下記のとおり報告します。

事業名	車いす観光バリアフリーマップ作成		
事業概要	<p>多くの障害を抱えた人たちが、障害が理由で行きたい場所ややりたいことをあきらめている状態にあります。その原因の一つに「いやな思いをすることもかもしれない」という、見えない不安が大きな要因の1つに挙げられます。それらの漠然とした不安を取り除くために、情報公開のツールとして、バリアフリーマップを作成し、車いすユーザーを中心に障害を抱えた人が安心して行きたい場所に行くことができるような環境づくりをしていくことを目的に、バリアフリーマップ作成 (2万部) を行った。具体的には別紙参照。</p>		
市担当課	観光課		
事業実施期間 (継続中の事業については、継続に○をつける)	開始	2019年 7月	継続 1日 ~ 終了 2020年 3月 31日
協働の形態	協働		
事業費	313,882 円		

~~鎌倉市役所
 令和 02.4.24 受付
 第 164 号~~

鎌倉市役所
 令和 02.4.24 受付
 第 165 号

<p>事業目的の達成 (継続中の事業については、現時点で判断する)</p>	<p><達成できた点> 車椅子ユーザーからのオーダーのあった有名な寺社仏閣及び、車いすでスムーズに入ることのできる飲食店・レンタル着物屋さんの調査を実施し、バリアフリーマップを作成することができた。</p> <p><達成できなかった点> 段差があるお店や寺社仏閣なども「人の助けがあれば行くことができる」というアイコンを付け、表示しているが、なかなか調査をしきることができなかった。また、信頼関係の構築ができ切れておらず、調査の段階ではスムーズにできたが、バリアフリーマップに掲載するというご説明をする段階になって断られるケースがあった。 今後、改善していくことができるようにしたい。</p>
<p>成果・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査をしていくプロセスの段階で、当事者への理解をしていただくきっかけとなった。また、飲食店側の視点(心配事)も聞くことができた。 ・神奈川大学の学生さんと一緒に行ったことで、若い世代の鎌倉の楽しみ方のイメージを知ることができた。 ・新しいお店などが増えている中で再度調査するきっかけができた。
<p>課題・問題点 (解決・改善の方法についても記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で観光自体が自粛となってしまい、バリアフリーマップを使った効果計測をできていないが、秋を目標に、バリアフリーマップ導入後の声など拾っていきたい。 ・寺社仏閣や飲食店などで「車いすの方来ていただいて大丈夫ですよ」と歓迎をしてくださるものの、入口の階段を上っていかねばならず、「お店側は手伝えないので、お客さんに上がって来てもらう必要がある」と、車いすを使っているが歩ける高齢者の想定をされているお店が多かった。「ソフトのバリアフリー」というととても聞こえが良いが、人によってのとらえ方が違うため、今後、慎重に言語化する必要があると感じた。
<p>今後の展望</p>	<p>鎌倉市内の別地域でもバリアフリーマップを作成していく。</p>

添付資料

- ① 鎌倉市協働事業実施報告書
- ② 決算書